

# 高校生 I C T 2022 Conference

in 長野

～テーマ～

デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

## 開催報告書

2022年10月15日(土)12:30-17:10

【会場】：オンライン

主催

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会  
長野県 長野県教育委員会 長野県警察本部  
(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会  
大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

1. 開催概要.....	3
2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催.....	5
3. 高校生 ICT Conference 2022 in 長野 開催概要.....	5
5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット.....	8
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	8
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	8

## 1. 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2022 テーマ： デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」
主催：	長野県 長野県教育委員会 長野県警察本部 高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発綜研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリー株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、株式会社サイバーフェリックス
協力：	株式会社内田洋行、株式会社NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&amp;活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p><b>【本年開催テーマのコンセプト】</b> 2019 年 12 月に感染が始まった新型コロナにより、それ以前の日常は激変し、人と人が直接接する機会をなるべく減らす新しいコミュニケーションの時代に入ってい</p>

	<p>ます。学校においては同年代が集まり語り合い、切磋琢磨するこれまでの姿は無くなり、分散登校やオンライン授業の導入、マスクの常時着用や部活動の制限による社会的距離の確保を前提とする学校生活に変わりました。中でも、高校生に大きな影響を及ぼしているのがオンライン授業の広範囲な導入です。</p> <p>コロナの完全終結は未だですが、ワクチン接種や治療薬の開発が進み、少しずつ新たな生活スタイルの模索が始まっています。これから始まる新しい生活スタイルはどのようなのか、新型コロナにより待たなしで始まった現在のデジタル社会はどう変わるのか。オンラインをテーマに問題点や課題を洗い出し、新たなデジタル社会への希望とこれまでとは違うライフスタイルへの期待を明らかにする。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
<p>開催の概要：</p>	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
<p>各開催地 募集人員等：</p>	<p>募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>
<p>参加参観方法：</p>	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
<p>高校生 ICT Conference 実行委員会：</p>	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長）</li> </ul> <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者団体訴訟室長）</li> <li>・ 植田 威（特定非営利活動法人NPO 情報セキュリティフォーラム理事）</li> <li>・ 小城 英子（聖心女子大学）</li> <li>・ 他、関係者団体、事業者等</li> </ul>

	<p><b>【事務局】</b>          一般社団法人安心ネットづくり促進協議会          〒104-0041 東京都中央区新富二丁目4番5号 ニュー新富ビル4階          TEL: 03-6280-4901</p>
--	--

## 2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
北海道	10月2日	オンライン
茨城	10月15日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	9月19日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月18日	オンライン
石川	10月2日	金沢勤労者プラザ
長野	10月15日	オンライン
静岡	9月11日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
大阪	9月18日	オンライン
奈良	10月9日	帝塚山大学
高知	8月16日	オンライン
福岡	9月23日	福岡県中小企業振興センター
長崎	8月20日	オンライン
大分	9月23日	ソフィアホール
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
最終報告会	未定	

## 3. 高校生 ICT Conference 2022 in 長野 開催概要

<p>概要</p>	<p>高校生、教員、企業関係者など52名の参加者を得て、“デジタル社会における学び方と学びの場 オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」”をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p><b>開会行事</b></p> <p><b>主催者挨拶</b> 長野県教育委員会事務局心の支援課 課長 滝澤 崇 様</p> <p><b>来賓挨拶</b> 総務省信越総合通信局情報通信部電気通信事業課 課長 傳田 剛 様</p> <p>現在、職場においてはワープロや表計算などを使いこなすスキルと同時に、オンラインのツールを使いこなすことも必須となってきている。学校ではGIGAスクール構想の実現が進み、1人1台の端末を使って学ぶようになった。低年齢から使用が始まっているので、早い時期からリテラシーについて学んでおく必要がある。また、リテラシーとともに情報モラルについても正しく身に付け、オンラインのコミュニケーションを行ってほしい。</p> <p><b>事業者による講演</b> Google 合同会社 小宮 希美 様</p>
-----------	---

	<p>デジタルシチズンシップについて、ご講演いただきました。</p> <p><b>熟議① 他校生との熟議</b> 6つのグループに分かれ、自己紹介、アイスブレイクの後、グループごとに大学生がファシリテーターを務め、テーマについて熟議を行った。</p> <p><b>熟議② 発表準備</b> 他校生との熟議の内容を持ち寄り、学校ごとに提言をまとめ、プレゼンテーションにまとめた。</p> <p><b>提言発表</b> 各校プレゼンテーションソフトを活用して4分程度の発表を行いました。</p> <p><b>代表選考</b> 参加者の投票を参考に選考し、長野県警察本部人身安全・少年課長 羽毛田 孝一様から代表校として松本工業高等学校を発表いただきました。</p> <p><b>講 評</b> 信州大学 総合情報センター 准教授 鈴木 彦文 様 参加校それぞれの発表についてコメントをいただきました。</p> <p><b>閉会の辞</b> 長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課長 塩原 昭夫 様</p>
参加校：	<p>東海大学附属諏訪高等学校 松本県ヶ丘高等学校 東御清翔高等学校 松川高等学校 松本工業高等学校 松本美須ヶ丘高等学校 明科高等学校 諏訪実業高等学校 東京都市大学塩尻高等学校 (受付順)</p>
日 時：	2022年10月15日(土) 12:30-17:10
場 所：	オンライン 本部は長野県庁教育委員会室
参加人数：	<p>熟議参加生徒 38人 見学者・関係者 14人(教員・教育関係者・その他) 合計： 52人</p>
熟 議 グ ル ー プ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【グループ名：1】6名 〔ファシリテーター〕井口 佳名子(県警学生ボランティア)</p> <p>【グループ名：2】7名 〔ファシリテーター〕高垣 知秋(県警学生ボランティア)</p> <p>【グループ名：3】7名 〔ファシリテーター〕久保田 大翔(県警学生ボランティア)</p> <p>【グループ名：4】7名 〔ファシリテーター〕山田 千晴(県警学生ボランティア)</p> <p>【グループ名：5】6名</p>

熟議報告

〔ファシリテーター〕 宮岡 美帆乃（県警学生ボランティア）

【グループ名：6】 5名

〔ファシリテーター〕 大橋 明香梨（県警学生ボランティア）

1.動画への質疑応答

- ・松本工業高校の動画について、今後パトロール機能のようなものがつけられたら良い。スクショや画像の保存ができないように
- ・その他「すごい伝わってきてよかった」などといった感想が多かった

2.イントロダクション、学校での思い出

- ・みんなで笑ったり、やったりする日常
- ・文化祭準備 ・なんとか保護者は招待することができるようになった文化祭
- ・部活動が廃部の危機だったが、誰かが入部してくれる度に喜んだ

○文化祭やクラスマッチ、部活動に関することが多かった

3.本題

マイナス意見+要望

- ・先生達が機器に弱い→先生達に伝わりやすい画角や授業といった講習をして欲しい
- ・先生達が連携がとれていなかった
- ・先生達の要望についていけない→初めてタブレット等を触る人もいて使い方を知らないのにこちらが知ってる前提で話を進めないでほしい
- ・数学の授業で一方向的に話をずっと聞いていることは大変→ブレイクアウトルームのようにグループ分けしてみんなで話し合いたい(ディスカッションしたい)
- ・先生に対して質問をすることができない、わからないままテストに臨むことになった、グーグルミートの質問機能で挙手ボタン1つは大変→生徒がわからないときにもっと気軽に質問ができるような機能がほしい
- ・↑に関して質問するのが恥ずかしい、授業を止めてまで質問するのは申し訳ない
- ・提出のやり方がわからず、提出期限をすぎてしまった

良かったこと

- ・学校に病気でいけない時期があってオンラインでクラスの空気感が味わえるようになった
- ・家が遠いからオンラインでできるのはとても助かる
- ・時間に余裕ができた
- ・学校に行くことが辛い人も授業が受けることができる
- ・板書するときリアルだと先生がすぐに黒板を消してしまうがオンラインだとスクショができて落ち着いて板書をする事ができた
- ・大会等で授業にでられないときに、オンラインで行うことによりどこからでも受けることができるようになり一人だけ遅れることがなくなる
- ・体育や実習といった対面でしかできないことは対面で行い、オンラインでできることはオンラインで(対面とオンラインの併用)

○やはりオンラインに対して時間に余裕ができたり板書しやすいといったメリットを感じている反面、質問ができない、課題の提出の仕方がわからないといった意見も多くあがった

#### 4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課 長野県教育委員会事務局心の支援課	会場、飲食手配、庶務

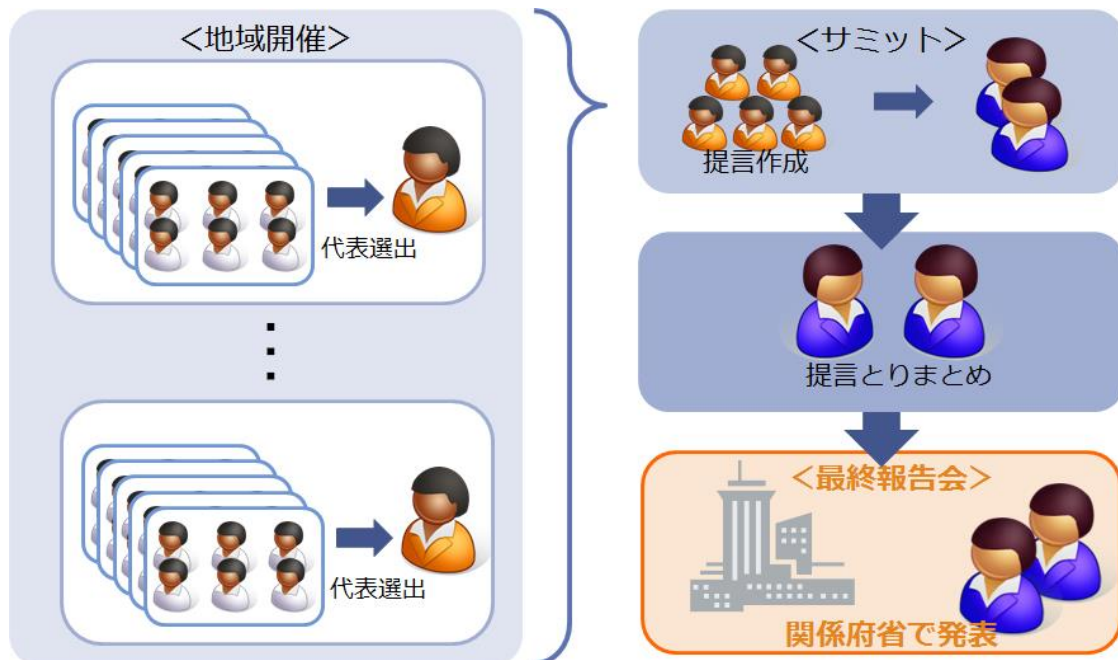
#### 5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット

高校生 ICT Conference 2022 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

#### 6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2022 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを語る。



#### 7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2022 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2022 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表



以上